

福島県立安積高等学校 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）  
第Ⅲ期事業計画【文理融合基礎枠・実践型】（令和6年度～10年度）

**研究開発課題名**

チーム安積モデルによる地球的課題解決に向けた国際共創力を有する科学技術系リーダーの育成

**研究開発の概要**

生徒は3年間を通して対話型論証を基盤とした探究活動を進める。教員は国際的な取組を含む探究活動に関する教育プログラム開発により、また、地域社会・卒業生は広範囲にわたるネットワークにより生徒の活動・教員の研究開発を支える。この「チーム安積モデル」の運用により生徒の「国際共創力」が育まれる。

**本校で育成する資質・能力**

- |              |             |           |
|--------------|-------------|-----------|
| A 複眼的な知識     | B 論理的思考の操縦力 | C 表現力・発信力 |
| D 自己理解・自己調整力 | E 能動的市民性    | F 寛容性・柔軟性 |

これからの社会では、科学的な見方考え方を基本とし、個人がエージェンシーを備えながら他者と協働して物事に対峙することが重要になると思われる。上記A～Fを備えることにより、国際社会においても多様な人々と共に物事を創造できる人材になることを想定し、これらの力をまとめて「国際共創力」と定義することとした。

**研究開発テーマ・内容**

**テーマⅠ 総合知を活かし、創造力を発揮できる科学技術系スペシャリストの育成**

第1年次は全員を対象とし、学校設定科目「SS探究Ⅰ」において地域課題に関する探究活動（地域共創探究）を行う。また探究活動を支えるために学校設定科目「SSアカデミーⅠ」「SS地理情報」等を行う。第2・3年次においては、各年次において「SSコース」を設定し、より高度な理数系課題研究と発展的な実験・実習に取り組む。また、希望者を対象として、理数系部活動、科学系オリンピック、女子理系教育等を推進する。

ここでは主に生徒個人の科学的な見方考え方を育むことを重視する。その結果、「A 複眼的な知識」「B 論理的思考の操縦力」「C 表現力・発信力」が育成できると期待される。

**テーマⅡ 身近な地域から地球的規模まで、「地域」を牽引できるリーダーの育成**

第2・3年次理型コース・文型コースの「SS探究Ⅱ」において地球的規模の課題の探究活動（国際課題探究）を行う。編成はクラス横断・文理混合とし、共創による課題解決の実践を行う。また希望者を対象として「福島学・福島復興講座」「少人数ゼミ」等を行い、課題先進地域に関連した課題探究や、様々な分野のスペシャリストから先鋭的な学びを獲得する。

ここでは、自然科学のみならず社会科学や人文科学的な視点も含め、他者との協働により物事を成し遂げることを重視する。この結果、「C 表現力・発信力」「D 自己理解・自己調整力」「E 能動的市民性」「F 寛容性・柔軟性」が育成できると期待される。

**テーマⅢ 全教員による、対話型論証をベースとした探究活動の指導体制の確立及び総合知を涵養するための多様な融合授業の開発**

対話型論証を活用した探究活動や授業展開を図る。教員は研修や実践を通じてその活用方法を習得する。また、総合知を涵養するために、融合授業の開発を進める。

ここでは教員の指導力向上を図るが、これにより生徒個人の能力に関わる「A 複眼的な知識」「B

論理的思考の操縦力」「C 表現力・発信力」が特に育成できると期待される。

#### **テーマⅣ 国内外の学校との交流の継続・発展及び福島を学び共創を促進する場の構築**

他校との協働事業や、国外の学校との連携、交流について継続・発展させる。その際、“Fukushima”の知名度を活かし、課題先進地域からの課題を学ぶ「福島学・福島復興」をテーマの一つとし、本校が福島県の学びの入口（ゲートウェイ）となるように取り組む。

テーマⅣは共創の場の構築であり、他者との関わりにより「C 表現力・発信力」「D 自己理解・自己調整力」「E 能動的市民性」「F 寛容性・柔軟性」の育成が期待される。

#### **テーマⅤ 生徒支援・教員の改革的教育プログラム開発支援のためのSSHシニアサポートネットワークの活用及びSSH地域連絡協議会との連携深化・拡大**

生徒の探究活動や教員の教育プログラム開発について外部からの支援を得るために、SSHシニアサポートネットワークやSSH地域連絡協議会との連携を深化・拡大させる。

テーマⅤは生徒、教員の活動への外部からの支援の進展を目指しており、これによりA～Fの全ての資質能力の伸長に好影響があると期待できる。

### **科学技術人材育成に関する取組内容・実施方法**

- ・SSコース編成：Ⅱ期に続きSSコースを編成する（テーマⅠ、Ⅱに記載）。
- ・自然科学系部活動：Ⅱ期に続き活性化を図る（テーマⅠに記載）。
- ・海外との連携：Ⅱ期に続き、海外との交流を推進する（テーマⅣに記載）。
- ・科学オリンピック推進：各種科学オリンピックについて生徒の参加を重点化する。対策講座を開講し、また、他校と合同で行う学習会も実施する（テーマⅠに記載）。
- ・女子理系教育推進：他校との連携、理系女子対象の外部講座等への参加、地域の小中学生の女子を対象とした取組等を実施する（テーマⅠに記載）。
- ・小・中学校との連携：令和7年度より本校に開校する併設型中学校と関連し、裾野拡大を図るため地域の小・中学校との連携を積極的に推進する。具体的には、科学技術に関わる実験教室等を実施する。その際、地域の科学館等とも連携する（テーマⅣに記載）。

### **研究開発成果の普及・発信に関する取組**

- ・校内における成果の共有・活用：生徒の成果については、発表会等の機会の上級年次から下級年次への伝達・波及を進める。教員の研究開発成果については、作成した資料や他校の研究開発報告書等の資料を保管できるコーナーを設置する。また、指導案や講演会の記録等のデータを校内サーバーや校内限定のクラウド上にアーカイブしていく。
- ・広報活動の充実：学校WEBサイトではSSH事業のトップページを作成し、最新情報から過去の蓄積まで、必要な情報へのアクセシビリティを高める工夫を行う。また生徒も巻き込んでSSH通信を定期的に作成しWEBにも掲載する。
- ・発表会や研修会での公開・発信：過去に本校で主催した生徒研究発表会や教員研修会の経験を活かし、地域や全国から本校に生徒・教員を招いた広域的な企画を行う。
- ・視察の受け入れによる発信：SSH指定校及びSSH指定校以外の学校の受入れを積極的に行い、広域的な発信をしていく。
- ・海外への発信：海外で「福島学」等での取組を発信するとともに、交流相手校に、訪日をして本校や福島で学ぶことを促す。